



親子木工教室

7月6日、船引屋内多目的運動場で、田村森林組合の皆さんを講師に迎え、公民館5館合同事業「親子木工教室」を開催し、テーブル作りをしました。当日は市内の親子29組が参加し、慣れない工具に苦戦しながら親子で協力し制作していました。参加した子どもたちからは「今度はイスを作りたい」、「将来は大工さんになりたい」と完成した作品に満足した様子でした。



避難所宿泊体験を実施しました

7月6、7の両日、田村市総合体育館で防災知識習得等を目的として「避難所宿泊体験」を実施しました。一般応募者や船引高校生徒等が参加し、段ボールベッドの設営体験等、実際の避難所を想定した体育館に一泊しました。夕食は非常食の鯖の味噌煮、肉じゃが等を湯煎したものを、鍋炊きご飯をお皿を汚さず食べる方法を学び、実践しました。来年度も実施予定のため、興味ある方はぜひ来年ご応募ください。



第3回 全国クワガタサミット

7月6、7の両日、市役所を中心に第3回全国クワガタサミットが開催されました。今回のサミットでは、昆虫チューバーやブリーダー、市の取り組み発表と昆虫ハンター牧田習氏による講演「昆虫の星・地球を楽しもう!」が行われました。全国から集まった昆虫有識者や関連事業者は、2日間にわたり自然豊かな田村市の魅力に触れ、市内の昆虫生息域の調査や情報交換を通して見識を深めました。



内閣総理大臣・福島県知事メッセージを伝達

7月1日、田村地区保護司会は、市役所を訪れ、「社会を明るくする運動」の内閣総理大臣および福島県知事からのメッセージを市長に伝達しました。この運動は、犯罪や非行の防止と罪を犯した人たちについて理解を深め、犯罪や非行のない明るい地域社会を導くための全国的な運動で、本年度で74回目を迎えます。今後、市内で街頭キャンペーン等を実施し、安全で安心な明るい社会の実現に向け、理解と協力を訴えます。



教育委員への感謝状贈呈と教育長・教育委員任命式

7月1日、市役所で、教育委員への感謝状贈呈および教育長・教育委員の任命式が行われました。6月30日付けで退任された船田隆典さんに感謝状を贈呈した後、7月1日付けで教育長として再任された飯村新市さんと、同日付けで教育委員として新任された渡辺隆治さんを任命しました。船田隆典さんには、平成29年から7年間にわたり教育委員として市教育行政の進展に多大なご貢献をいただきました。



ふるさと都路会 会員たちが楽しいひととき

6月30日、第26回ふるさと都路会総会が東京都のアートホテル日暮里ラングウッドで開かれ、会員や来賓、市関係者など約60人が出席しました。総会では、本年度の事業計画・予算などを承認。都路町の幼児・教育施設への本の寄贈目録が、松本武会長から市長に手渡されました。引き続き、懇親会が行われ、民話の会の渡辺美智子代表から松本会長へ田村の方言集が贈呈されました。抽選会も行われ、楽しいひと時を過ごしました。



中学1年生が人権に対する関心と理解を深める

7月9日、市文化センターで人権啓発講演会が開かれ、市内中学1年生が参加しました。福島大学教育推進機構高等教育推進企画室准教授の前川直哉さんが「誰もが生きやすい社会へ～多様な性と性的マイノリティ」と題して講演いただきました。

前川さんは「性の在り方が大多数の人と異なることは医学的に異常ではない。身近に『いない』のではなく『言えない』人がいるので、『言っても言わなくても大丈夫』と見守ってください」と呼びかけました。



東京ふるさと滝根会 ふるさとの友と交流

7月7日、「6年度東京ふるさと滝根会交流会」が東京都千代田区のホテルルポール麹町で開催され、会員や市関係者など約60人が参加しました。

交流会に先立ち、会員である埼玉県総合リハビリテーションセンターの市川忠医学博士を講師に迎え、「認知症の最新治療 早期治療の重要性」の講演を開催。交流会では、バイオリンとビオラの演奏、ふるさと産品などが当たる抽選会などが行われ、参加者はふるさとを思いながら交流を深めました。



昆虫の聖地協議会 シンポジウム

7月7日、福島第一原子力発電所事故からの復興を目指す、市をはじめとする県内の市町村、大阪府箕面市、能勢町、宮崎県延岡市で構成する昆虫の聖地協議会が、経済産業省、環境省、復興庁の後援により、大熊町でシンポジウムを開催しました。協議会では、多様な昆虫が生息できる循環型社会や昆虫の未来文化を発信し、地方創生、観光促進、将来における昆虫を資源とした未来経済価値の創造を目指し、「昆虫を活用した地域活性化」について、意見を交わしました。



カナダ留学から 鹿又沙弥子さんが帰国

7月5日、「田村市猪狩俊郎人材育成基金」の助成を受けて留学していた安積高校2年の鹿又沙弥子さん（船引町、写真右から2人目）が、市役所を訪れました。

鹿又さんは「初めはアクセントの違いからクラスメイトとの会話も大変だったが、世界中に友達ができた。貴重な体験に協力いただいた方々に感謝します」と、市長に報告しました。鹿又さんは昨年9月に渡航し、バンクーバーにある語学学校に入学、約10カ月間ホームステイしながら学業に励んできました。



中学生芸術鑑賞教室 生の舞台演劇を体験

7月4日、市中学生芸術鑑賞教室が市文化センターで開かれ、市内の中学2年生約260人が参加しました。

今回鑑賞したのは、重松清氏の小説を原作とした演劇「未来」で、いじめ問題を第三者の視点で描いたストーリーでした。生徒たちは、役者の圧倒的な演技を、息をのみながら鑑賞していました。



暮らしの助け合い はじめて講座開講

7月2日、高齢者のちょっとした困りごとを解決する有償ボランティア「隣隣サポーター」を養成する「暮らしの助け合いはじめて講座（隣隣サポーター養成講座）」が開講されました。講座では、田村市社協のボランティアセンター職員や田村消防署署員を講師にお招きして、介護保険制度やボランティアの心構え、実技を伴った救命救急について学びました。

講座は全4回行われ、今後は高齢者の身体の特徴や認知症の方への接し方などを学びます。